

## 【第五回つばきの国俳句大賞】

令和四年二月八日～十三日、国重要文化財・萬翠荘で、伊予つばき協会主催による「第四十六回つばき名花展」が開かれた。今年は気温の低い日が続いて寒かったため、花の開き具合が心配された。

そのため例年より少なめではあったが、鉢物と切り花を合せておよそ一七〇点が展示された。また、椿をかたどった和菓子や絵画の展示などもあり、見どころの多い展示会であった。

今年も椿展の開催にあわせて椿の俳句の募集があり、「つばきの国俳句大賞」には、八十七句の応募があった。選者は、八木健、山口聰（伊予つばき協会会長）、小泉和子（同理事）で、最終日に結果発表と表彰があった。副賞として、大賞と優秀賞三点の俳句を八木健がアートにして贈呈し、椿の苗木や道後の入浴券も贈られた。

### □大賞

#### 居眠りをしてゐたらしい椿落つ 渡部美香

地面に落ちているが、まだまだ綺麗で落椿になるには早すぎる。作者は「この花は居眠りをして迂闊に落ちてしまったのでは」と思ったのである。落椿になった理由を楽しく想像した発想が素晴らしい。

### □八木健賞

#### 満開のつばきトンネル青い海 小笠原満喜恵

一読して、高知県の足摺岬にある「椿のトンネル」が想起された。トンネルは全長二キロにおよび、椿は半島全体で十五万本もある。椿のトンネルを抜けると眼前には太平洋が広がる。大きな景を上手く詠みこなしており、椿の赤と海の青の色の対比も見事である。

### □伊予つばき協会会長賞

#### 椿みなもの言ふており笑みており 脇塚耀子

作者は、椿が何かものを言い笑みを浮かべていると感じたのである。これは、日頃から椿に親しんでいる人でないと詠めないだろう。花と対話することで生まれた擬人化の表現が素敵である。

## □伊予つばき協会賞

悠久の時ふくみてや寒椿

源のぶ子

眼前の寒椿は、今、現在のものであるが、この花の遺伝子には永い時の記憶が刻まれているのである。椿は毎年新品種が生まれるが、いずれの花も悠久の歴史を秘めている。そのことへの敬意がある。

佳作の作品も、新しくて面白い発想、表現がある。

## □佳作

椿展蕾の数も褒めちぎり	山田修子
“紫の上、ゆるりと納めのカレンダー	山田紅衣
出勤の私励ます紅椿	大森英子
紅椿白無垢のねね嫁ぎゆく	野原香代子
暖気（おくび）にも出さざる本音白椿	西野周次
黄の椿子規の寝言はなんやろな	津野久美
赤つばきメジロに突かれたいいたい	田代善二
フランス風館に住まふ姫椿	鶴崎尚子
石鎚を手提げに一つ椿展	鶴崎 孝
頑に裂けぬひとつや椿の実	木下美智子
ひた咲ける子規てふ椿律てふ椿	三好愛子
ひざまづき椿苗木の値踏かな	怒和ノリ子
老いらくの恋ひとつ咲く紅椿	武井日出子
断捨離のお手本ですね落椿	日根野聖子
乙女椿着てみたかったなセーラー一服	山田真佐子
雨靴のつま先飾る落椿	森岡香代子
椿の葉や虫すべるすべり台	岡田廣江
窓少し開けて椿と風を受く	桑田愛子
花より葉つば椿の住人毛虫より	上山美穂
主無き庭にひっそり寒椿	小笠原恵子

伊予夢殿



玉姫



吹上紋



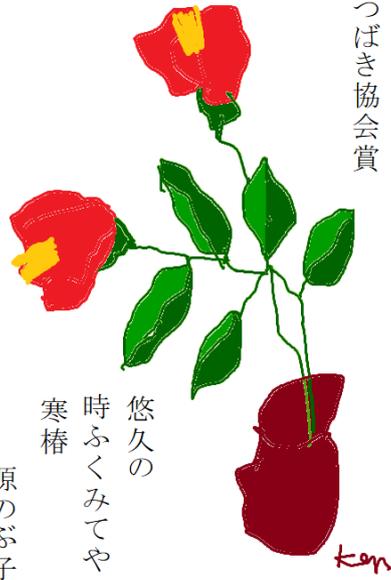
右から渡部さん、八木健、小笠原さん、脇塚さん、源さん、小泉和子さん



椿そっくりの和菓子



第5回つばきの国俳句大賞  
伊予つばき協会賞



悠久の  
時ふくみてや  
寒椿  
源のぶ子

第五回つばきの国俳句大賞

大賞 渡部美香



居眠りを  
してあたらしい  
椿落つ

満開の  
つばきのトンネル  
青い海

第五回つばきの国俳句大賞  
八木健賞 小笠原満喜恵



椿みなもの言ふており笑みており  
第五回つばきの国俳句大賞  
伊予つばき協会会長賞 脇塚耀子

